

# 和の光

宝塚市立西谷中学校



## 而今

「今」を一生懸命に生きる。それが未来へと繋がっていく！！

校長 筒井 啓介

「而今」とは禅語で「じこん」または「にこん」と読みます。

道元禅師が「いはくの今時は、人人の而今なり。我をして過去未来現在を意識せしめるのは、いく千万なりとも今時なり、而今なり」と説かれています。

過ぎ去った過去は二度と戻ってきません。誰しも過去を振り返ることはありますが、過去の失敗を悔やんでばかりいたり、あるいは過去の栄光にしがみついたりしては、肝心の「今」という時が過ぎ去ってしまいます。また、まだ来ぬ未来を考え不安になってしまっても、いいことは起こらないのではないのでしょうか。

過去や未来をあれこれ思い悩むのではなく、今を一生懸命に生きる。大切なのは「今」というこの瞬間です。「今」という瞬間を精一杯生き抜くことができれば、それが未来へと繋がっていくと考えることができます。

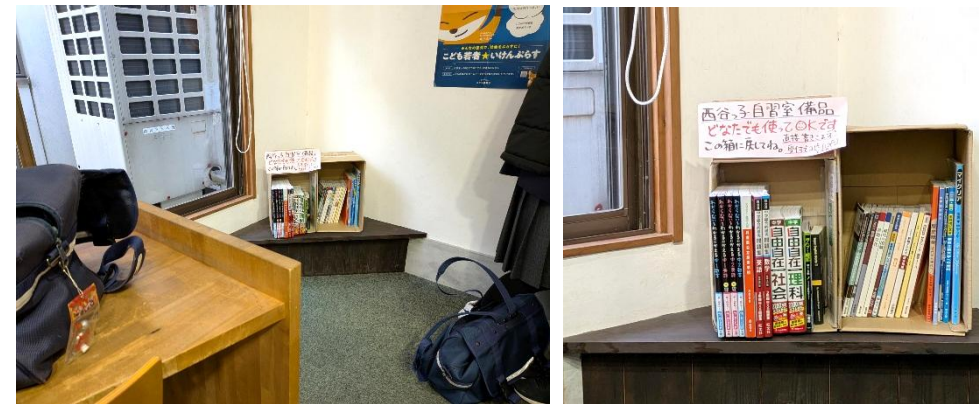
2月10日、11日に私立高校の入試が行われ、西谷中から多くの生徒が受験します。また、16日、17日には公立高校の推薦・特色選抜が行われます。人生で初めての受験という人がほとんどで、緊張することと思いますが、「今」という瞬間を大切に、今成すべき事・今しかできない事を確実に実行して欲しいと思います。その先には輝ける未来が待っていると信じています。

頑張れ、西谷中生！！ 輝ける未来に向かって駆け抜けよう！！



### ■地域に支えられた学びの環境

先日、地域の方から「西谷児童館に、先輩が寄付してくださった参考書や問題集を置かせてもらっています。奥の図書館の窓側の棚です。写真をとりました。生徒さんたちに活用していただけると嬉しいです。」といった情報をいただきました。



西谷中の卒業生から寄贈された参考書・問題集（西谷児童館）

西谷中の生徒は、部活動の帰りや休日に西谷児童館を利用することが多いですね。西谷中の卒業生が皆さんの役に立ててもらえればということで、参考書や問題集を寄贈してくれたそうです。進路実現のために有効に活用してもらえると卒業生の皆さんも喜んでくれることと思います。

この他にも、放課後学習室では西谷中の卒業生や保護者有志の皆さんが「学びの場」を提供してくださっています。学校の宿題や受験勉強などで困ったことがあれば優しく相談にのってくれます。私も、数回様子を見学させていただきましたが、たくさんの中学生在が机を囲んで和気あいあいと学ぶ姿には感心しました。このような「学びの場」が長く続くように、参加するみなさんには利用時のマナーを守って参加すること、運営してくださる卒業生・保護者有志の方々に対する感謝の気持ちを大切にしたいと思っています。

### 自分自身に

吉野 弘

他人を励ますことはできても  
だから——というべきか  
自分がまだひらく花だと  
すこしの気恥ずかしさに耐え  
淡い賑やかさのなかに

自分を励ますことは難しい  
しかし——というべきか  
思える間はそう思うがいい  
すこしの無理をしてでも  
自分を遊ばせておくがいい





## ■公開授業研究会を実施しました



英語(3年生) 授業者 図師先生



理科(1年生) 授業者 西浦先生



数学 発展コース(2年生) 授業者 黒田先生



宝塚市内外の教育関係者で研究協議を実施



数学 基礎充実コース(2年生) 授業者 前田先生



大東市教育委員会 山本和人参事より助言



芦屋大学 藤本光司教授より助言

西谷中学校は令和7年度に宝塚市教育委員会の教育研究指定を受けて、「ICTを活用した個別最適な学びの実現」に向けての研究を進めてきました。その取り組みの成果を宝塚市および他市の教育関係者に発表するための公開授業研究会を開催しました。

公開授業については、保護者・地域の皆様にも参加いただき子どもたちの学びの様子をご覧いただきました。教科ごとにタブレット端末を使ったり、グループワークをしたりと、それぞれ工夫をしながら授業が進められており、生徒たちがいききと活動する姿をご覧いただくことができたと思います。

また、数学の授業では兵庫型学習システム（教員がペアで指導したり、学習内容によってクラスを分けて指導したりする仕組み）を活用した個別支援の取り組みもご覧いただきました。

私たち教員は「授業が命」です。時代の流れや学校の教育課題を踏まえながら、絶えず自己研鑽を行い「分かる授業づくり」に務めなければなりません。先行きの不透明な VUCA 時代をたくましく生き抜くためには、唯一の答えのない課題に対しても仲間と共に意見を交わしながら解決策を見出す力が必要とされています。そのためにも、ICTを有効に活用しながら「基礎学力の定着」「コミュニケーション能力の育成」に向けて引き続き研究・研修を推進して参ります。(1月22日)